

～中世 其の4～

本遺跡では、有力者層の屋敷地の^{そば}傍で南北方向に延びる道路と、それに^{ちよっこう}直交する東西道路が見つかりました。南北道路は^{どうろはば}道路幅が約2m、東西道路は道路幅が約0.5～1mで両側に^{そっこう}側溝をもちます。

庶民の宅地群は、^{みぞ きそくてき}溝で規則的に区切られた中に^{ほったてはしらたてもの}掘立柱建物や倉庫などがあったと考えられます。宅地群の西隣には南北道路があり、さらに西側には河川が流れていました。

この場所は、物資の運搬や水上交通の^{かなめ}要となり、徳用における計画的町づくりの原初であることが推測されます。



道路と側溝 写真⑤ (南から撮影)